

平成25年第2回「知事と一緒に生き生きトーク」の議事概要

1 テーマ:再発見! 移住された方から見る岡山の魅力

2 日時:平成25年5月9日(木) 14:00~16:00

3 場所:岡山市三光荘

4 参加者:県外から岡山県に移住された方 9名

5 意見内容等:

(1)移住を決意した動機や岡山県を選んだ理由等

- ・東北の震災後、関東直下型地震の懸念と食べ物への放射能汚染の不安。岡山を選んだのは、活断層と災害が少なく、個人的に調べた中では、放射能汚染が中国地方では一番低かった。「おいでんせえ岡山」の支援もあり、移住後はその活動にも参加している。
- ・当初は東北で就農を考えていたが、東北で野菜を作るとはリスクが高いので西日本への移住を決めた。ホームページの空き家情報で気に入った物件を見つけて決めた。集落の方たちが自家用野菜を作っているの、それを通販するサイトを立ち上げ、集落の方たちには喜んでもらっているが、収益にはなっていない。
- ・家族との時間を大切にしたいことから就農を決意した。岡山を選んだのは、災害が少ないこと、気候が温暖で新規就農の受入制度が整っていたこと。
- ・小さい子どもがいて、震災後、埼玉で生活する自信が持てず、祖父がこちらにいることもあり、夫と相談して岡山に来た。夫は仕事の関係もあり、埼玉県に残っている。今は、福島の子どもたちや震災避難者と地元の方々との交流活動を行っている。
- ・福島で震災に遭い、当初、避難者として受け入れてもらった。放射能の影響を考えると子どもたちを帰すわけにいかず、今の場所が、以前住んでいた環境に似ていることもあり、空き屋もあったので移住を決め、農業をしている。
- ・もともとの出身は岡山で、娘の誕生を機に移住してきた。以前祖父母の住んでいた古民家をリフォームし、スイーツ工房を運営している。

(2)県、各市町村の支援策で助かったこと、意見等

- ・東京での移住相談会にも行ったが、実際、移住候補地に行ってみないと分からないことが多い。移住には地元の方との良い関係がどうしても必要。今の場所に決めたのは、伺った時に住居の斡旋で地元の方が窓口になってくれ、親身になってお世話をしていただいたから。
- ・2年間の農業実務研修を経て就農したが、その当時、市や普及センターの方などにお世話になった。住居や農地を探す際には、特に農業委員の方には大変お世話になった。それ以来、地域に10組ほどの移住者があったが、農地と住居をセットで確保しづらくなってきていると感じる。高齢化で、農業を辞める地元の方が出てきており、何か対策が必要。
- ・仕事をやめて移住してきたので、アパートを借りる時に通帳のコピーを要求され、残高が不十分だということで断られた。困ってしまって、「おいでんせえ岡山」にお世話になって、貸してくれるところを紹介してもらった。

(3)岡山に移住して、困ったこと、良くなかったこと等

- ・田舎なので、子どもが少なく、小中学校の統廃合もあり、今後、そのあたりが困る。
- ・学校は遠いが、巡回バスがあり、そのあたりで困ったとは感じていない。
- ・県や市のホームページの情報が少ない。子育て情報が少ないと感じる。
- ・岡山の方は福島や周辺の現状を本当に知らないと感じる。

- ・夏などに1週間程度、福島の子どもたちを保養に招いている。本当は、県、国でやってほしい。民間で頑張っているが費用もかかるので、お願いしたい。
- ・果樹農家をやっているが、初期投資に多額の自己資金が必要だった。現在では、補助率が下がり、材料費の高騰もあり、倍の自己資金が必要になっている。国の制度資金はあるが、地元で担保や保証人が必要で、利用できない制度になっている。これでは若い人は新規就農できない。県には若い人を受け入れることができる施策を考えてほしい。
- ・避難者は放射能など給食の食材に敏感で、給食の食材は地産地消にし、その情報を発信するべき。
- ・人が雇用できるような農業法人があれば、雇用の確保ができるのではないかと。
- ・アルバイトを求人情報で探したところ、あまりの時給の低さに驚いた。
- ・私の地区は、移住した方が地域にとけ込んで、草刈りや共同作業にも積極的に参加するため、地域の方々も移住者に対して、できるだけ助けてあげようという環境がある。

(4)これから移住される方へのアドバイス、移住者を積極的に受け入れようとしている県や市町村へのアドバイス

- ・国が行っている緊急雇用対策を利用して1年ぐらいの間、移住者が就職できるまで、県や市町村で働けるようなことができれば、移住者にとって助かる。
- ・住宅に関しては、今年度から岡山市が移住者に対し、半年から1年の間、市営住宅を貸してくれる事業が始まるが、県や他の市町村でも一時的な住居を提供することができる環境を整えば、移住しやすい。
- ・若い世代が、もっと簡単に就農できるような仕組みを整えてほしい。果樹の場合、生活ができるようになるまで6年かかる。それまで借りられ、収入が得られるようになってから返済できるような制度をつくってほしい。
- ・避難者同士が交流する場を、もっと小さな単位で設けていただければ助かる。避難者登録制度があるが、あまり知られていない。もっと周知する必要がある。
- ・北海道の酪農家で半年間の住み込みアルバイトをした経験がある。そんなことが岡山でできれば、県内のことや地域のことが分かる。
- ・有機JAS制度よりも厳しい有機無農薬制度が岡山にはあるが、認知度が低い。もっと周知をしてほしい。
- ・岡山は古民家が多く、また農家の高齢化が進んでいるので、若い人にうまくバトンタッチする仕組みがあればよいと思う。

(5)知事の意見

- ・私も知らないことが多いため、このような生の声を聞く場を設けさせていただいた。
- ・理解していたことが正しかったと認識したこともあり、使いづらい制度もあることも知ることができた。
- ・移住地の方々から移住者に手を差し伸べる環境と移住者が地域にとけ込む姿勢が少しでもあれば、移住はしやすい。
- ・移住される方々に対して、どのような支援策を行うのか。それを県がすべきか、市町村がすべきか、NPOがすべきかは整理する必要がある。
- ・住宅や仕事の確保の難しさ、地域にとけ込む必要性などを再認識させられた。若い意欲のある方が岡山県に来てくれるということはチャンスであり、来てくれることでいろいろなことが見つかってくれれば良い。
- ・県財政は非常に厳しいが、予算を賢く使うことで、移住者の方々の不安などを少しでも解消していきたい。